

第3回茨木市文化振興ビジョン策定専門部会における意見のビジョン素案への反映

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
第4章	・ あれもこれもと幅を広げながら、奥に入っていけないのではないか。もっと絞った方がよいのではないか。(p.9) ・ 特に関心がない人が 40.4%ということだが、その人たちに少しでも関心を持たせるために「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」という言葉が入っているかと思うが、これもまた風呂敷を広げすぎていて難しい。この言葉だけを見ていると「そうかな」とは思うが、もっと絞っていった方がよいのではないか。(p.9-10) ・ 現実とかけ離れている部分があり、机上の空論で終わってしまいがちな項目が8割以上あるのではないか。ビジョンができた後、ではどうするのかという、how の部分に踏み込もうという意図が、第4章と第5章の間に何かあってもよいのではないか。(p.16) ・ 次のステップでどうしていくかという、第5章につなげる部分が一番難しいと思う。そこを紙ではなく、次にどのようにつなげていくかというところをしっかりと、少なくとも何行かで記載していただけたらよい。(p.18)	・ 第4章の1～5のテーマごとに施策イメージを追加。(p.19、22、24、27、29)
	・ 「公募型補助金の交付などを通じて」ということの具体的な記述が必要ではないか。(p.4)	・ 「第4章1(1)市民の自発的な文化芸術活動に対する支援」にて「公募型補助金」の注釈を加筆。(p.17)
	・ 小さなコミュニティでも対応できるような取組をしているということがあれば記載する。細やかなコミュニティでも、いつでも自分たちの創意で何かができるというような記載があればよい。(p.4-5)	・ 「第4章1(1)市民の自発的な文化芸術活動に対する支援」を加筆。(p.17)
	・ 17 ページの図表を「(1)市民の自発的な文化芸術活動に対する支援」の上に上げ、その中で人材の育成や団体間の連携強化あるいは産官学の連携などを盛り込み、一つの総合的な図表にならないか。これだけでは、茨木市は支援するだけという感じになってしまう。この図表を「2 市民との協働による文化のまちづくり」と「(1)市民の自発的な文化芸術活動に対する支援」の間に持っていき、ここのテーマである「市民との協働」をもっと強調してはどうか。(p.7)	・ 図表を変更し、「(1)市民の自発的な文化芸術活動に対する支援」の上へ移動。(p.17)
	・ 文化芸術をしようとしている人に対する心遣い、バックアップしようという気持ちがあるだけで、ホ	・ 「第4章1(2)市民と文化芸術をつなぐ人材の

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
	ールの評判はよくなる。職員も含め、人の理解や啓蒙というところも、茨木市による支援の中に入れていただければ、もっとよいのではないか。(p.12)	育成」を加筆。(p.18)
	・ 先程、人という話があったが、結局はプロデュースができる人が必要になる。提案、企画し、反対する部署を説得できる豪腕なプロデューサーが必要であって、それは市内だけではなく、市外からでもよい。日本全国を探して、この人という人を呼んできて、まずその人に任せてみるというところから始めなくては一皮剥けないところがあるのではないか。(p.17)	・ 具体的にプロデューサーを招致するといったことはビジョンに書き込むことができないが、「第4章1(2)市民と文化芸術をつなぐ人材の育成」にて職員の能力向上について加筆した。(p.18)
	・ 過去5年とこれからの5年で一番大きく変わるのは教育機関と若者の数だと思う。立命館大学が来て、若い方が来られるので、その周辺にさまざまな店や、小さくて怪しい文化的スペースが出てくるだろうと思う。そこをうまく遊びも含めた文化として手をつないでいくという方針をもって3年、5年取り組んでみる。(p.21)	・ 「第4章1(4)産学官の連携による文化芸術活動」を加筆。(p.19)
	・ 核となる人材をどのように育成するのかということが書かれていない。(p.4)	・ 「第4章1市民との協働による文化のまちづくり」の施策イメージに記載。(p.19)
	・ 市民が盛り上がることにしないと、文化や芸術というものは上から目線でこうしなさいということとは、かえって何か志を持ってやろうという人に水を差すような気がする。市民の盛り上がりをプロモートできないか。(p.13)	・ 「第4章1市民との協働による文化のまちづくり」の施策イメージに市民との協働事業を記載。(p.19)
	・ 20 ページに「文化芸術施設の計画的な整備」と書いてあるが、これは新しい施設を意図した話なのか、それとも既存施設の有効利用、あるいは再生も含めた考え方なのかどうか。その辺りをするかどうかということはあると思うが、この前から若干意見が出ていたように、古い施設も改めて整備して、お金をかけずに施設を整備するということも必要ではないか。(p.7-8)	・ 「第4章2(2)いつでも・どこでも文化芸術にふれられる環境づくり」を加筆。(p.21)
	・ 市民総合センターにはホールが一つあり、鏡やバーも全部ついている。それは多目的に使える。電動でイスが出てきて、普段はオープンスペースでという所がある。そうした所があるという広報が必要。(p.15)	
	・ 23 ページに学校関係のことが書いてある。先程からいろいろと出ているが、ここでは学校間の連携、小学校と中学校、あるいは高校、大学、どのような形になるかはわからないが、そうした連携も必要ではないか。(p.8)	・ 「第4章3(1)文化芸術の教育現場における活用」を加筆。(p.23)

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
	・ 24 ページの「(2)文化芸術の担い手の育成」の中で、「後世に伝えるべき文化価値の高いものについては受け入れる」という意味合いについて。どのような形で受け入れを考えているのか、この言葉の意味を知りたいと思った。(p.8) ・ 「より多くの市民の理解を得る」というのは、どのような意味合いでこのような言葉が入っているのか。(p.8)	・ 「第4章3(2)文化芸術の担い手の育成」の中で「新しく先鋭的な文化芸術についても…」と表現を変更。(p.23)
	・ 教育機関でいえば、中高生や大学生で頑張っている子どもたちを活かして、子どもたちが楽しむきっかけづくりができないか。同世代がいて、友達が出ているから見に行くということが起こり、大きいのではないか。(p.21)	・ 「第4章3未来へ向けた文化芸術の担い手の育成」に施策イメージ【3 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成】を追加。(p.24)
	・ 25 ページの「(1)歴史・伝統資源の保存・継承」に「茨木市らしさ」と「茨木らしさ」があるが、これは使い分けているのか。(p.8)	・ 使い分けていないため、「茨木らしさ」に統一した。(p.25)
	・ せっかくミネアポリスとの姉妹都市協定を結んでいることもあるので、市内・市外だけでなく、もう少し国際的な感覚が入っていてもよいのではないか。(p.5)	・ 「第4章5(1)茨木らしさを活かしたブランド形成・発信」を加筆。(p.27)
	・ 市の意識そのものであるが、それを全ての分野にというのはどうしても無理で、全ての人にとってのもおそらく無理である。文化というものはそのようなものなので、ではどこに力を入れるのか、美術なのかというところで、その人なりの方向性を絞っていくという意志も、紙には書かないにしても今後の次の段階で、では再来年以降はどの分野に力を傾けていくかということを進めていかなければならないということ、意志として持っていたきたいという願いがある。(p.17)	・ ビジョンとしては分野を絞った記載をすることは難しいが、今後注力すべき分野を定めるかどうかといった点は検討していく。【修正なし】
第5章	・ 第5章については、もう少し議論を深めながらも一度充実させないと、実現に結びつかないのではないか。(p.18) ・ 5章が非常に短いので、そこに懐疑を感じている。では、どうしていくかというところへの決意というか、本当にやる気を出して、腹をくくって取り組むという文言なり、構成なりというものがないと、この会議の意味も、限られた時間とお金も無駄になってしまうのではないか。(p.16) ・ ビジョンを具体的にどのように進めていくつもりなのかということに関しては、ここで決めることではないのか、それともこの次に誰かがリーダーシップを取って、責任を持って進めていく機関や方式までも考えるのかというところで変わっていくかと思う。今ここで決まっても、放置されると、誰かがするだろうと言って放っておかれることが多いという気がする。(p.11)	・ 「第5章文化振興(ビジョン)の推進に向けて」を加筆し、構成を変更。(p.30-32)

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
	・ 後はアイデアと実行していくシステムや機関。それを市がどのように進めていくのか。選んでいくのか、指名していくのか、頼んでいくのか、市の中で人や機関をつくるのかなど、そのようなビジョンがないとおそらく潰れてしまうだろう。今全てを決めることはできないが、その入口だけでも考えた方がよいのではないかと。(p.11・12)	
	・ 各主体に期待される役割という部分もそうだが、特に茨木市のところを充実させる。茨木市も文化振興財団と観光協会だけになっているが、他の教育に係る部分等も、小学校、中学校とも非常に大きいし、福祉の部分等もかなり関係すると思うので、主体は文化振興財団や観光協会だろうが、うまく連携を取るということを意識して書き込んではどうか。(p.18)	・ 「第5章1(1)協働・連携体制」の【各主体に期待される役割・働き】を修正。(p.30)
	・ 市の政策推進会議の総括部会と推進体制はどのような関係になるのか。総括部会で決定したことを市民の推進体制で取り組む、という話になるのか、そうではなく、あくまで市民が主体のものを吸い上げて、部会で検討して実現させていく形になるのか。総括部会なので各部長級の集まりだろうと思うが、その辺りが先程から議論になっている、どのようにしてやっていくのかということが少々見えにくい。(p.19)	・ 「第5章1(1)協働・連携体制」を加筆。(p.30)
	・ 推進体制のイメージ図はもう一つはっきりしていない感じにも受け止められる。例えばこの図で、固有名詞を出してもよいかどうかはわからないが、先程の茨木カンツリー倶楽部のような事例が浮かんでくるか。これは事業者に入るのだろうか。(p.20) ・ 市民を強調している割には one of them になっている。(p.20) ・ 16 ページの理念と推進体制のイメージがもう少し連動できてよいかという印象がある。(p.20)	・ 「第5章1(1)推進体制(イメージ図)」を修正。(p.30) ・
	・ みんなが手をつないで丸く連携・協働するというのは、あまり現実的ではない。文化芸術団体や事業者は、それぞれクロスしたりしながら、それぞれの意図・目的に従ったところにつながっているというのが現状なので、そこは茨木市とどのようにつながって、茨木らしい文化にしていこうとすることが課題なのではないか。(p.20・21) ・ そのため、みんなが丸くつながっているのではなく、それぞれがクロスしてつながっていて、それが離れていたりつながっていたりという、さまざまな可能性を考えられる図の描き方をした方が現実的ではないか。(p.21)	・ 「第5章1(1)推進体制(イメージ図)」を修正。(p.30)
	・ 29 ページの推進体制のイメージを一言で言うと、行政だけではなく、みんなで行き届くということ	・ 「第5章1(1)推進体制(イメージ図)」を修正。

章番号	委員意見(議事録頁番号)	ビジョン素案への反映(ビジョン素案頁番号)
	が重要。少し古い言い方かもしれないが、「メセナ」という言葉がある。民間による文化支援ということが強調されてもよいのではないか。(p.22)	(p.30)
	・ ここへ「茨木フェスティバル」を載せる。協働でやっているの、あれを足掛かりにさまざまな文化を持ってくることもできる。「いばらき光の回廊」も協働して取り組んでいるので、実際に茨木市でやっている事例を載せてはどうか。(p.18)	・ 長期的なビジョンであるため、具体的な事業については第5章では記載しないこととしたい。【修正なし】
	・ 10年間の計画なのだから、1年後にはこうなっている、3年後、5年後、10年後はこうなっているという物差しを載せてもよいのではないか。(p.19)	・ 具体的な年次毎の目標はビジョンには記載できていないが、今後検討していきたい。【修正なし】
その他	・ 成功事例は参考として、もし入れるのであれば参考資料として入れられてもよい。(p.18)	・ 参考資料として記載するか否かを検討する。
	・ 8ページの「(4) 大学等知的資源」に、差し支えない程度で、文化という切り口でそれぞれの大学や、先程ご紹介のあった中高での最近の実績などを羅列すると、資源として視覚的にも素晴らしいということがわかるのではないか。(p.23)	・ 参考資料として記載するか否かを検討する。
	・ 国があつて、大阪府があつて、茨木市があるのだろうが、どのように連携を取るのか。茨木市一市だけで支援すると言っているが、支援の仕方によっては本当にプラスになっているのか懸念がある。さまざまなところからお金を調達することも考えた方がよい。(p.9)	・ 「第1章2(4)文化振興基本法・大阪府文化振興条例等を踏まえた策定」において、大阪府の取組を踏まえたビジョンであることを記載。(p.2-3)【修正なし】

以上